反核・平和・荒木栄没後20周年
福岡県のうたごえ祭典開く

盛会だったうたごえ祭典。久しぶりに上演された合唱詩劇「不知火」は、参加者の心をうった。

十月二十四日十二時、大牟田市労働福祉会館三階大ホールにおいて「反核・平和、荒木栄没二十周年」第五回福岡県のうたごえ祭典が開かれました。

三崎のぶち合せ太鼓でオープニングした会場には、うたごえの仲間、地元の人びとが約七百五十人も参加し、熱っぽい雰囲気につつまれました。

前半のプログラムは、反核・平和のうたごえを中心に進められ、後半は荒木栄没二十年を記念して行われました。

三池闘争をえがいた、合唱詩劇「不知火」は十年ぶりの公演とあって、出演者はもちろん、見るものにも、あらたな感動をあたえました。

とくに久保清さんが殺され、柩が行くシーンでは、当時を思い出してか、あちこちですすり泣きが聞こえました。

三池労組・主婦会からは約四十人が参加し、「もやせ闘魂」「三池の主婦の子守唄」「炭掘る仲間」の三曲を力強くうたいました。

そのあと、福岡県合同のうたごえによる「地底の歌」は、夕張の災害、閉山反対闘争のなかでうたいつがれ、今日もなお合理化と闘う炭鉱労働者の姿を再現させ、共感をあたえました。

会場の横では「荒木栄遺品展」が開かれ、往時をしのびました。これに先だつ二十三日夜、スカイプラザにおいて「荒木栄をしのぶ会」が開かれ、約百人の仲間たちが参加しました。

この会には荒木栄さんの夫人、子息、兄姉たちも出席され、練習中の肉声テープが公開され、原作者上野信幸さんから贈られました。

二十三日、二十四日の集会に、森田組合長、島主婦会会長など各役員、組合員も多数参加し、森田組合長があいさつをおくりました。

囚人労働遺跡を訪ねる ④
権現山の福寿院

小崎文人

大牟田市西米生町に権現山があります。福寿院は、こんもりと繁る森に覆われたその頂きにあります。高野山随心院真言宗高野派に属していて、十一面観音を本尊にしている、と三池郡史にしるされています。

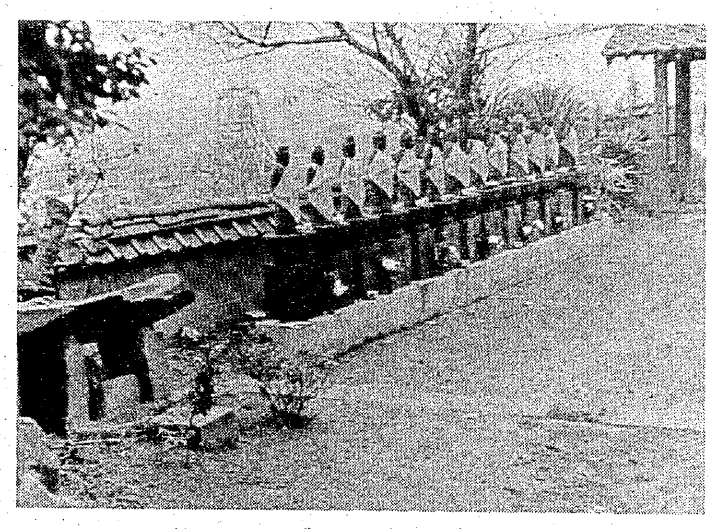
大正の末に、岡山県の一寒村からここへ移された寺院で、当時の住職の名を繁村順次郎といっていました。実はその人、長い間三池炭鉱の苦役に泣いた末、無事に刑期を終え、さいわい三池集治監から出獄できた、俗にいう放免囚の一人だったのです。

彼は、その後福寿院の住職として生涯の幕を閉じますが、ぜひともその悲しい死を伝えようと、当時の駅馬村役場の戸籍係が、八方手をつくして本籍地を探し求めたのですが、それはついに徒労に終わりました。つまり無籍者だったのです。

歳月を重ねた後で、三池郡史から、はからずも繁村順次郎というのは世をしのぶ仮の名で、本名津村密玄であることがわかりました。せっかく放免の身となり、長く苦しい生活を送った三池集治監を後に世に出ながら、故郷にある親兄弟や妻子たちにあえて背を向け、最後まで実の名を明かすことなく、あの世に旅立っていく人の思いはどうだったでしょう。

彼を知る人はいっています。「立派なお坊さんでした。この人の導きを受けて僧になり、お寺を開いた同じ放免囚の人もいました。自分が重罪人だったばかりに、世に出ればかえって親兄弟ばかりか、ほかの親類縁者にまでも迷惑かけるようなことがあっては、との配慮から、ついに息が切れるまでも、実の名を明かすことをはばかったものと思われます」。

今は、まったく縁のない人が守っている福寿院ですが、同寺院は繁村順次郎という仮の名とともに、すべての囚人たちの心のなかにともる、かすかな光となっているのではないでしょうか。



ここは、静かなたたずまいの福寿院の境内の一隅で、眼下に、長く三池集治監の囚人労働者が苦しめられた、あの宮原坑（修羅坑）の竪坑やぐらをながめることができます。

短歌　夕張の悲劇

十二分会（三川）町　佳郎

久し振りに網戸を閉（さ）して屋を居り陽気にさそわれ蚊の出で来たれば
すすき穂は風になびけど蠻る空満月はテレビに見るのみにして
四、五人の群に先立ち走りくる吾娘（あこ）よ赤き鉢巻風になびかせ（運動会）
あまたなる親に交じりて玉入れに興ずる遠き日にわがなせしごと
虫かごを背負い網持つふたり子の笑まえる写真の出来上り来ぬ
飛び込みしヤマ追いかけうからどち網持ちて屋内（やぬち）を馳けし夏の夜
金木犀の甘き香りはただよいてくりやべの妻を数（す）日なごます
力なきかまきりを見出つ朝まだき掃き寄する落葉の中に身をよじりつつ
おしろい花の朱きはいまだ咲きつげど日々に秋色庭覆いゆく
背戸の柿も日々色を増し時おりに熟せしいくつ落つる音せり
秋の気配日々に増しゆくわが庭の桃色のさざんかの開き初めたり
閉山後の処理は速しも為政者の失対本部を現地に置けり
労務債の七十七パーセントは支払うと約せど期限はひとせのうちに
やむを得ず閉山を肯（うべな）いし仲間らの職を追わるるは現実となる（全員解雇の日）
脚光を浴びて開発（ひら）きし鉱山（ヤマ）なりきゆきづまりゆきづまりて七年にて潰（つい）ゆ
三池争議を支援に来たりし夕張のなまりひどきオルグを思い出だしつ
国の助成金数百億をつぎ込みしヤマも経営不振七年にて終焉となる
襲い来し閉山の苦は推量（はか）り得ず明日を生くべき仲間らよ夕張は冬
ヤマを潰し新たなる策弄しおらん独占の悪果てしもあらず
九十三人の死の果てに来し閉山にヤマの町夕張の空よどみて暗し

開田さんが黎明会書作展へ

十月十四日から十八日まで、大牟田井筒屋の六階ギャラリーで開かれた、第五回黎明会（井手正風門下）書作展に開田耕心（晃臣・十五分会）さんが出品されました。

新年特集号の原稿を募集

「みいけ」の『新年特集号』で、組合員・家族、退職者、守る会の会員、新労組員の皆さん、詩・短歌・俳句・川柳・狂句など

平和と民主主義、命と権利を守り、生活の向上のための創造をめざしてたたかう労働者の意欲を燃えあがらせましょう。ふるって原稿を寄せてください。

▼原稿募集要領

短編創作・随筆・職場や家庭からのレポートなど
千六百字以内、一人一篇。

私の主張
千二百字以内、一人一篇。

詩は一人一篇。短歌五首。その他は五句まで。
写真・絵・マンガなど
一人一点。白黒で葉書の二倍型まで。
その他、コント・笑話・子供の作文・姿見など
千二百字以内、一人一篇。

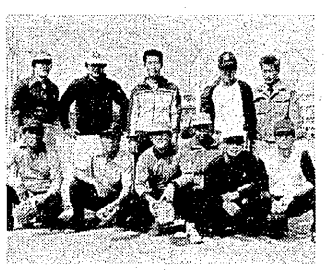
締切り　十二月十五日

紙上匿名は自由ですが、住所と氏名は明記のこと。謝礼は特にありませんが、心ばかりの記念品を贈ります。

ソ球大会で惜敗
荒尾地区労福協主催

十月十七日、荒尾地区労福協主催のソフトボール大会が荒尾高校グランドで行われ、地評傘下十二チームが参加、三池労組から佐藤徳士さん、白木光雄さん、小坂英彰さん、山田勝さん、甲斐田親さん、野田幹雄さん、松藤末雄さん、田尻礼二さん、栗野親生さん、立山義人さんが選手として出場しました。

試合は途中までリードしていましたが惜しくも十二対七で逆転、惜敗しました。



退職記念旅行決まる

今年度の退職記念旅行は、関東・関西と沖縄の二班編成で行うことが、アンケートと両班の希望者の集会で決まりました。

※関東・関西（第一班）
期日　十一月二十六日出発、三十一日帰着。
京都、大阪、東京、日光とまわり、不知火会との交流を予定。

※沖縄（第二班）
期日　十二月十二日出発、十五日帰着。
南部戦跡、中・北部観光、基地めぐり、反戦交流などを予定。